

全国聴覚・ろう重複障害児施設協議会

全国各地の施設からご報告をいただきました。(4月11日現在)

- ① ろう学校の状況はどのようになっていますか。いつまで休校か自主学習受入れなどわかる範囲でお答えください。

北海道：ふくろう（回答）北海道内の聾学校は通常通りの授業が行われております。今後、2桁の新たな感染者が出た場合は、再び休校要請が行われると聞いております。

奈良：すてっぷ（回答）①、② 3月2日から学校が休校になり、キャンセルが多数出て、利用者が一日10人ぐらいの日が続きました。4月に入って、8日始業式9日入学式の予定でしたが、結局子ども達が行ったのは8日だけで9日は当事者だけで開催されたようです。9日、10日は一日受ける体制となり、キャンセルが多く出ています。利用を希望される子どもさんは保護者が働いている方、又は重複の保護者の方が希望されています。13日は学校があると言うことで受け入れますが、休校になった場合利用児は激減すると思われます。

埼玉：ひとつ星・さかど（回答）県内2校のろう学園（特別支援学校に該当）は4/10～5/6まで臨時休校となりました。「登校日」という形で児童が登校する日が後日設定されるようです。

福岡：スケッチブック（回答）福岡市は4月6日から5月6日まで休みです自主学習になってます。

群馬：きらきら（回答）群馬県立聾学校は5月6日まで休校です。来週（4月13日）から、個別サポート（1人90分程度）を週に2回まで、希望すれば受けられるようになりました。（3月は完全休校でした）週2回、登校日があるような形です。

鹿児島：デフキッズ（回答）4/6から開校になっており、授業もあります。しかし、下校時間を早める体制をとっています。

広島：手と手の広場（回答）3月2日から休校。保護者が仕事で家を空ける必要があり、且つ放課後デイなどの預け先がないなどの限られた場合にのみ学校が受け入れ。4月6日に始業式・入学式。以降、通常通り開校。体育祭などの1学期の主な行事は中止、ないしは縮小。マスク着用、手洗いなどの3密を避ける感染防止策の徹底。

京都：にじ（回答）ろう学校が京都府立、難聴学級が京都市立なので、休校の開始日が違います。

ろう学校 … 4/13（月）～5/6（水）、難聴学級 … 4/10（金）～5/6（水）

どちらの学校共に、自主学習の受入れをされていますが、ろう学校は福祉サービスが利用できる場合はそちらを優先に考えておられます。「家庭 → 福祉サービス → 学校」の順番で過ごしてほしいと保護者に連絡がありました。難聴学級は、各学校で給食なしの受入れをされています。

福岡：かいじゅうの森（回答）5月6日まで休校です。3学期末は一部子どもの受け入れがありました。春休み以降はありません。連休明けまでの休校が決まった直後は、1ヶ月の間に2回、各担任が家庭訪問の予定でした。緊急事態宣言が出されると決まった前日に急遽家庭訪問し教科書や課題を渡されたようです。感染予防のため定期的に担任が家庭に連絡を取り、子ども達の様子を確認されています。

北海道：サポートハウスもも（回答）①②当事業所は2月28日から3月4日まで事業所を休所、3月5日から4月7日まで春休み同様の利用受け入れしましたが、来所にあたり厳しく確認（体調確認等）させていただいたうえで受け入れしていました。4月7日から順次 学校開始に伴い、

現在は通常の受け入れをしています。利用者は家庭によってコロナ感染の心配から、自宅でみるという家庭います。一方、学校がないので朝から利用する子も増えました。が、全体でみると例年より利用人数は減少しています。

愛知：楓（回答）豊橋ろうは5/6(水)まで休校延長。4/19(日)までの間、平日9~15時まで自主登校教室開設。20日(月)以降についてはまだ詳細不明です。いずれも学校からではなく、保護者からの連絡によるものです。

東京：かたつむり（回答）：4月6日に再開し10日までの一週間登校日の予定だったが、感染の広がりにより7日から再び休校。どうしても家で見られない児童・生徒については担任と相談の上預かりも可。

愛知：茜（回答）岡崎ろう学校は4月6日始業式でしたが、この日に7日から19日まで休校の知らせを受けました。（7日は幼稚部の入学式の予定だった）

② その影響を受け、施設の利用状況はどうなっていますか。利用者数増加か激減か、その理由も教えてください。

北海道：ふくろう（回答）一斉休校が実施された際には、予約ベースで前月比▲80%、実績ベースでも▲40%となりました。当事業所は重複障がいのお子さんが少なく一人でも留守番が可能と判断され、利用が大幅に減少したものと考えております。また、利用者減に合わせて非常勤職員のほとんどを休業させており、今月に入っても100%の出勤となっておりません。

埼玉：ひとつ星さかど（回答）利用自体は2~3割減少する見込みです。もともと放課後の利用の方が多い特徴がありますが、それに加えて緊急事態宣言が出されている為、自宅で過ごすという家庭が多い為です。

福岡：スケッチブック（回答）利用者は半分になりました。

群馬：きらきら（回答）利用者は減っていますが激減ではありません。保護者によって、①コロナが心配だから休む方と、②毎日子どもが家にいるのは大変だから預けたい人と③仕事をしているから預けたい人と、3パターンあると感じています。

鹿児島：デフキッズ（回答）以前と比べて減少しております。県外に行ったり、感染予防のために自ら自宅待機をする保護者が多いです。

広島：手と手の広場（回答）3月の利用者数はほぼ通常通り。長期休業中の送迎体制を取ったため、各家庭からの利用も長期休業中並みに保たれた。施設内では、換気、通気に留意し、3密を避けるよう配慮した。午後からは、学校と連携し、学校のグラウンド、体育館を利用、3密を避け、体力の維持やストレス発散に務めた。

京都：にじ（回答）京都市から、「家庭保育が難しい児童の受入れを」という通達があり、保護者にはそのように連絡をしています。にじは、車のお迎えはなく、公共交通機関を使うことが不安な保護者もおられるので、利用を控える方が多いです。家庭保育ができない児童のみとなるので、1日5名~8名くらいになり、利用は減ります。

福岡：かいじゅうの森（回答）人との関わりができるだけ避けるため、休校決定前の利用申し込みをキャンセルされた方が多いです。通常の利用数の半数以下です。緊急事態宣言が出される前には、仕事をされていないご家庭のお子さんの利用申込がありましたが、緊急事態宣言が出された後は仕事をされているご家庭の子どもさんのみの預かりとなっています。県内の感染拡大や近隣で発症者がでたことで、感染予防のために家で過ごすことを決められています。

愛知：楓（回答）4/6(月)新学期開始予定以降は、利用者数だいぶ減りました。10名超える日はなく毎日1ケタです。こちらから自粛のお願いをしているわけではありませんが、保護者から利用を控える旨の連絡多く受けています。中高生の保護者からは、「うちちはいいから、小さい子たち優先してください」と気遣いもありますが、楓は幼稚部も低学年も少ないので必然的に利用は減りました。仕事を持つ親も、職場に相談して休みを取っている方もいます。総じて、家庭で対応しているケースがほとんどです。自主登校教室をどのくらいの人数が利用しているのかは、すみません把握していません。学校と楓の併用も今のところありません。

東京：かたつむり（回答）3月～4月一週目の春休み中まではほぼ定員（平日はオーバー、土曜日はごく少数）。学校再開後の放課後利用希望が出ていたが、7日からの休校、緊急事態宣言の発令により保護者も自粛モードに。クラブも8日からは、どうしても希望の方のみ預かることに。毎日3～4人に減少。

愛知：茜（回答）8日は18人利用の予定でしたが、13人のキャンセルがあり、5人となりました。

三重：ひまわり（回答）定員を超える日々が続き、スタッフは夏休み以上の長い期間で営業時間より朝早くから夜遅くまで毎日10時間は超えているため疲労蓄積でスタッフが倒れてしまわないか心配しております。もちろん子どもも疲弊していると思います。

③ 新たな問題に直面していますか。感染のリスクが高まって感じていること。職員の疲労蓄積、今後の見通しなど。

北海道：ふくろう（回答）休校の長期化により、学習の遅れが目立ってきております。3月丸一か月授業がなく、おそらく、学年準拠の学習進度にはなっていないものと思われます。このため、大学受験を控える新高3生のごく一部を対象に、指導員を派遣し、在宅指導（家庭教師的なもの）を2週間実施し、対象となった保護者からは大変喜ばれております。（なお、訪問による指導も一定の要件を満たせば通所したものと見なすとの通知がありました）

今後再び一斉休校が行われれば、さらなる学習の遅れが顕在化するため、オンラインによる学習支援も訪問と同じ扱いをしてほしいと願っております。なお、オンライン指導に際しては全ての参加者が字幕、手話を見ることが出来るようなシステムを構築しております。

（ZOOM+PC+iPad+スマホ+UDトークの組み合わせで対応）

奈良：すてっぷ（回答）長期休暇と同じ扱いで事業所を開所しているために、勤務時間が延長されています。先が見えないためにいつまでこの状態が続くのかということで疲労が蓄積しています。臨時休校に伴う報酬請求事務が繁雑になり、処理に追われています。

埼玉：ひとつ星さかど（回答）やはり、いわゆる“3密”にあたる環境と言えるので衛生面の維持が難しいことがあります。また、公共交通機関を使って通っている子ども（保護者）の感染リスクをどうするかが課題です。代替え可能な手段があれば自家用車等の利用に変えてもらうこともできますが、手段がない場合公共交通機関を使用するしかありません。公共交通機関を使えば当然感染のリスクも高まり他の利用者にも影響が出る可能性があります。かと言って遠方まで送迎の範囲を広げることも出来ないので、場合によっては利用を控えてもらうことになると思います。

福岡：スケッチブック（回答）スタッフも疲労がたまっています。コロナウイルス感染しないかストレスもあると思います

群馬：きらきら（回答）→通常は14時～18時の開所ですが、学校休校中は10時～16時で開所しています。午前からのスタッフの調整が大変で、一人ひとりの疲労も溜まっています。学校に相談し、寄宿舎指導員に1日2人程度、応援に来てもらうことになりました。

→利用者は激減ではないものの、数は減っています。職員はいつもより長時間働いています。

収入が減り、支出が増えていますが、報道で見るような、収入激減ではないので助成金をもらうのも難しいと考えています。（情報は集めていますが）経営的な心配はあります。

→学校であれば、広い教室に子どもは最大5～6人で、密集を避けられます。当事業所では、教室よりやや狭いか？という部屋に10人前後の子どもが集まりますので密集を避けることが難しいです。（公園に行くことが増えましたが、部屋にいる時間をゼロにするのは難しい）マスクを付けて口元を隠しての会話も難しいです。子どもたちに「くっつかないで」と話しても、難しいです。温かくなってきたので、窓を開けられるようになりましたので、密閉はなんとか避けています。3密を全て避けるのは現実的に無理な状況です。

鹿児島：デフキッズ（回答）職員の疲労蓄積、また感染者が近くにいることで神経質に感じてしまったり、来月の土曜開所や夏休みの企画など今後の見通しの不明でさらに不安を感じてしまう。

広島：手と手の広場（回答）施設内の換気、手洗い、消毒等、3密にならない環境を常に維持、今まで以上の徹底が必要。

京都：にじ（回答）朝からの受入れが続き、正職員の疲労蓄積が一番の問題かと思います。子どもたちが帰った後に事務作業をして、朝は早くから受け入れをしているので、勤務時間も長くなってしまいます。ただ、本部からの応援もお願いできるので、なんとかなりそうです。

福岡：かいじゅうの森（回答）・感染について保護者の意識に温度差がある・利用者減による子どもの活動やコミュニケーション環境の変化・かいじゅうの森を利用しないことで生活リズムの乱れが懸念、また、手話でのコミュニケーションが制限される。・職員自身の健康管理と感染者になるのではという心理的負担・利用者減による非常勤職員の減収及び今後の経営不安

北海道：サポートハウスもも（回答）スタッフの配置については短時間のパートさんのシフト配置が厳しいこともあります、急いで新規のパートさんを入れました。また、1か月以上に及ぶ朝から受け入れをしているため、疲労もかなりたまっていました。こちらでは昨日から通常通りの受け入れに戻ったので、徐々にいつもの日常に戻りつつあります。また、北海道でも感染者が増加してきているので、再び北海道独自での緊急事態宣言がでたら、と先がまだ不透明なのが不安です。

愛知：楓（回答）：現在利用しているのは、共働きの家庭や、兄弟が多くいる子、毎日家だとストレスがひどい、等のケースです。事業所で過ごす以外の家庭時間まではこちらで管理できないので、不特定数との接触を受けていることを知ると、どれだけ事業所内で気を付けていても受け入れる側としてはなかなか不安です。

東京：かたつむり（回答）・感染するリスクも感じているが、逆に自分自身が知らない間に感染していてなかまにうつしてしまっていたらどうしよう、という不安はいつもある。・自粛による収入源。なかまが減っても人件費はある程度発生するのでそこをどういう形で国・自治体に補償してもらえるか。「家庭にいるなかまを支援し記録したら出席とみなしてよい」というやり方は放課後ディの主旨と合わない。・非常勤職員の身分保障。（休業補償をして10日から休んでもらっている）・あと1ヵ月と思って頑張っているが簡単に終息することはとても思えない。・なかまや家族の精神的負担が心配。せっかく言葉が増えてきていたなかまが、聞こえる家族の中だけで生活して

言葉が減ってしまうのも心配。・行政の対応は、保護者が共働きかとかそういう視点が多く、なかま自身にどういう影響があるかという視点がない。・消毒等の衛生品の確保が相変わらず困難。

・障害の特性上、地域のなかまだけでなく遠方から通ってくるなかまが多いので、そういう人たちが再び参加できるまでには相当な期間がかかりそう。

愛知：茜（回答）家庭の事情により利用できない子、利用できる子に分かれ二極化が起きています。厚労省からマスクの提供を受けましたが、アルコール消毒は不足してきています。ある市からはアルコール消毒などを受け取りました。しかし他の市では、1月から3月までマスク、アルコール消毒を購入した場合、市が経費を負担するとのことでしたが、どこにも売っていないので買えませんでした。事業所としても3つの密でない場所の確保、広場などに出かけるもダメかどうか判断に迷うところもあります。

三重：ひまわり（回答）施設としては子どもを第一に支えることが原則ですが、以上のとおり施設内ですっと過ごさなければならないことを考えるとスタッフも負担が大きくなっています。子どももスタッフも感染させないだけでなく感染させられないようにしていますが、見通しがないためストレスが爆発しないか懸念しております。すでにイライラしているお子さんもいらっしゃいます。なぜ休校なのかまたコロナをなかなか理解できない重複や未就学のお子さんもいます。